

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたい	との関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
重点・挑戦し続けるたくましさの育成 ・ 郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びを実感できる授業への挑戦 ②一人ひとりの見届け・一人ひとりの子に居場所をつくる ③地域との協働・地域社会への発信	桜花爛漫・飛翔若鷹・獅子奮迅	ひとりである	確かな学力の育成	①	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善  ① 教師の授業力向上  ① 学習における家庭との連携	児童は、自分の意見を相手の意見と比べながらもつことができている。 児童は、課題解決に向けて、自分で考え取り組んでいる。 児童は、変容を交えたまとめができている。 児童は、基本的な学習内容を身につけている。	B B B B	・中学校からの兼務により、教科専門性を活かした授業ができている。 ・「変容を交えたまとめ」に課題がある。今後、変容を交えたまとめのよさの交流や表出の仕方について職員で共通確認する場を位置付ける。また、誰が指導にあたって再現性を高めるために、ある程度はシステムティックにしていく必要がある。その上で、国語や算数等の教科で、共通した取組を進める。 ・家庭学習では、パワーアップ週間を機に個が必要だと考えた学習を進める意識をもたせられた。体系的な家庭学習について課題が残ったが、宿題に対する考え方も多様になっているので、中学校と連携しながら小学校の家庭学習のよりよい方向を探っていく。	
							児童は、自分の選択した課題に意欲的に取り組んでいる。 児童は、荘川に愛着をもち、興味・関心をもって活動できている。 学校は、地域資源・人的資源を活用し、魅力的な素材開発に取り組んでいる。(ユネスコスクールとしての活動の充実)	B A B		
							児童は、学んだ事を地域や保護者に発信することができる。 学校は、学んだことを学校内外に発信する活動を意図的に位置づけ、社会に働きかける子の育成に取り組んでいる。	B B		
							学校は、小中連携した体系的なカリキュラムの作成に取り組んでいる。	A		
							児童は、なりたい自分に向かって粘り強く取り組んでいる。	B		
							学校は、SST、SGE(多様性への理解)を取り入れた「さくらタイム」の実施ができている。	B		
							児童は、どんな理由があろうといじめが許されないことを理解している。 学校は、マイサポーターを取り入れた教育相談の充実を図っている。	A B		
							児童は、自尊感情を高め、自分や仲間のよさを言うことができる。 児童は、変わることや失敗することを恐れず、やってみようとしている。	B B		

学校運営協議会における主な評価内容	・一人一人が自分で考えて行動しようとする姿が見られた。ICTを活用する姿もよい。 ・保護者による学校評価も全体に伸びていてよい。質問項目が伝わりにくい文言もあるので改善が必要である。 ・家庭での情報機器の見届けが課題ではある。学校での情報教育や情報機器の扱いについて情報発信があった方がよい。 ・来年度の経営構想に関して、地域との連携についてより具体的に記した方がよい。
-------------------	--